

中津川遺跡 (なかつがわいせき)

所在地:石岡市中津川字下富田前234番地ほか

調査期間:平成31年4月1日~令和元年12月31日

調査面積:5,283㎡

委託者:国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所

調査原因:国道6号千代田石岡バイパス建設事業

調査機関:公益財団法人茨城県教育財団(石岡事務所)

TEL:029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

1 遺跡の概要

中津川遺跡は、石岡市の南東部に位置し、恋瀬川左岸の標高約24mの台地上に立地しています。今回の調査は国道6号千代田石岡バイパス建設事業に伴うものです。今回の調査区は遺跡の中央部付近で、県道石岡田伏土浦線(高浜街道)が横断しています。台地上には、舟塚山古墳や茨城廃寺跡といった著名な史跡や、当財団が調査を行った田崎遺跡・田島遺跡・槇堀遺跡などがあります。これまでの調査では、縄文時代の竪穴住居跡や土坑群と遺物包含層、弥生・古墳・奈良・平安時代の集落、中世・近世の建物跡や墓壇と火葬施設、道路跡などが確認されています。



中津川遺跡の立地と周辺の遺跡
(「いはらきデジタルマップ」より)

2 調査の成果

今回の調査では、縄文時代中期(約4,000年前)の竪穴住居跡や土坑群と遺物包含層、室町時代(約500年前)の屋敷跡を確認しました。

縄文時代の遺構は、今回の調査区の西側にある谷に沿うように密集している様子が確認できたことから、今回の調査区域(谷の東側)が集落の中心部であると考えられます。

室町時代の屋敷跡は、複数回の建て替えを行いながら100年程度存在していたと考えられます。屋敷跡には馬小屋と考えられる施設が伴い、馬を埋葬した墓壇を3基確認していることから、馬を飼育して利用していたと思われます。また、方形竪穴遺構と呼んでいる特徴的な形状の遺構は、密集した状態で屋敷地の南西部と北西部に存在しています。方形竪穴遺構は、出土遺物が極端に少なく用途を明確にすることはできませんが、形状や配置などから倉庫または作業場として利用されていたと考えています。



中津川遺跡を西から望む(奥に霞ヶ浦)
(及川昭文氏撮影)

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではないので、引用・掲載はご遠慮願います。

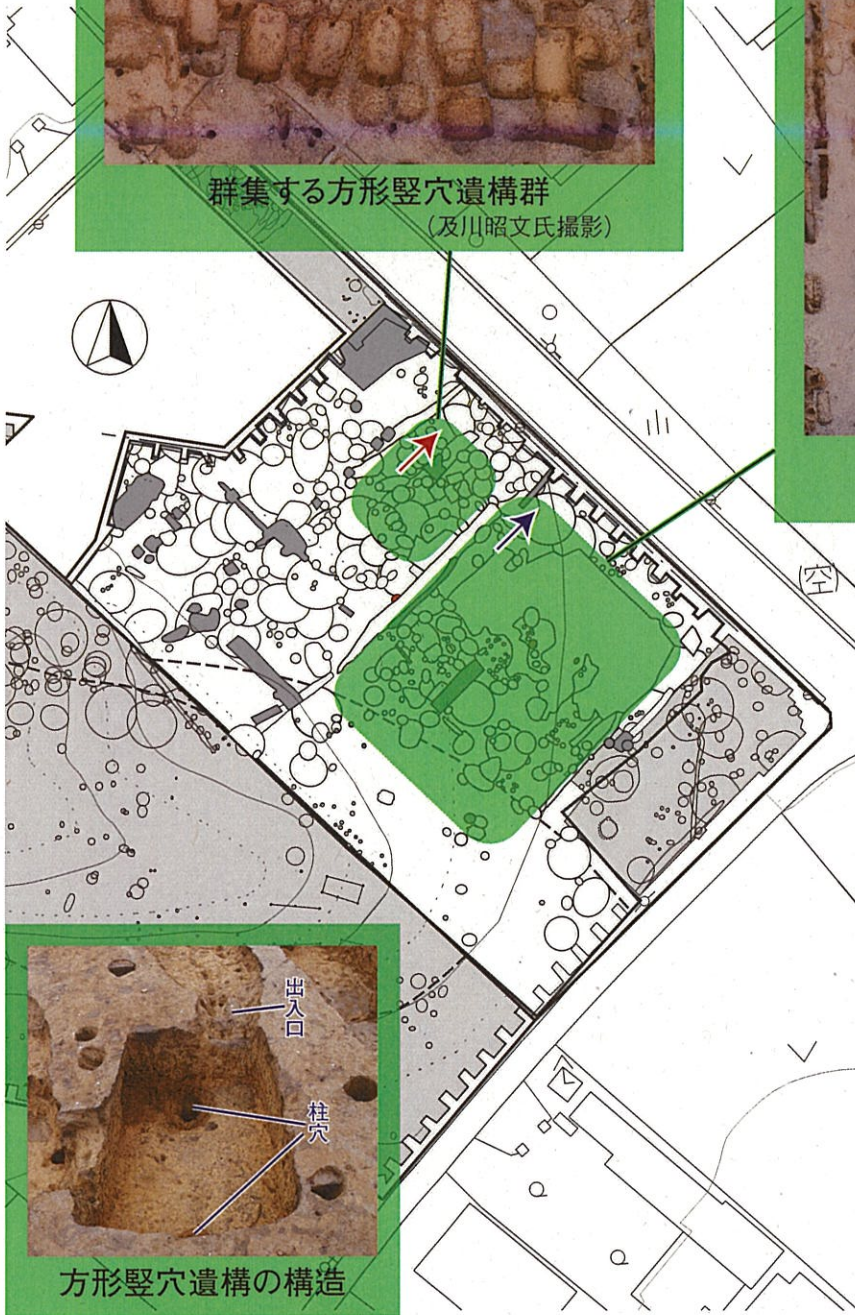




群集する方形竪穴遺構群
(及川昭文氏撮影)



屋敷跡と方形竪穴遺構群
(及川昭文氏撮影)



埋葬された馬



側壁と底面に粘土が貼られた土坑



方形竪穴遺構の構造



重複する縄文時代の土坑



土坑から出土した縄文土器